しかし、これらの恐怖感の差異を度外視して、単に統計的に両群の差を比較しても有意性が認められました。（.05＞P＞.01）

このように高所恐怖の除去においても脱感度法の効果が認められましたので、引き続いて高所（太鼓橋遊具を渡る）恐怖の除去や、遊動性（いすぶらんこに乗る）恐怖の除去を行ない、いずれもかなりの効果をあげることができました。

かつてアメリカのジャーシルドという心理学者は子どもの恐怖を除去するのに、単なる説得は最も効果がなく、幼児を恐怖対象や恐怖場面に徐々に接近させる経験獲得法が最も効果的だと述べましたが、今回の私の実験によってジャーシルドの主張の正しさが証明されたわけです。

これらの実験によって見出された原理や技術を幼稚園や家庭での生活場面に応用することによって、子どもたちの恐怖や不安の多くは知らず知らずのうちに、効果的に除去されるのではないかと思います。

私はこの他にもいくつかの実験を行なっておりますが、脱感度訓練の効果が比較的あらわれにくかった被験児のうちには、幼稚園での集団生活や適応性においていろいろな問題を持っている者が多いという事実を見出しています。これは非常に興味深い問題ですので、将来はこれについても科学的な検討を加えたいと考えています。

（聖和女子大学）

倉橋賞を受賞して

黒田実郎
宮井淳子
小寺沢静代

保育の現場で働く者と、大学の研究室で働くものとが過去一年間協力して一つの課題に取り組んできました。現代人の共通の悩みである不安や恐怖の形成過程を追及し、更にそれの解決策を見出そうと努力してきましたが、まだまだ研究は緒についたばかりで受賞したことを心苦しく思っています。ただ、従来保育学会ではあまり問題にされなかった情緒面の研究を取り上げ、また恐怖の除去の実験では全く独自な方法を用いたことだけが、わたくしどものよろこびとするところです。人類の進歩と調和に貢献できる立派な研究を行なうには、保育経験者と学術研究者とが密接に協力しなければならないことが今回の共同研究を通して痛切に感じられました。

わたくしどものこのささやかな研究が、少しでも子どもの理解に役立つことを心から願っております。